

**【 手術 】****715 グルカゴン（禁忌で使用できない場合（消化管内視鏡手術））の算定について**

《令和7年10月31日》

**○ 取扱い**

ブチルスコポラミン臭化物製剤（ブスコパン注等）が禁忌で使用できない患者に対する、消化管内視鏡手術時のグルカゴン（遺伝子組換え）（グルカゴンGノボ注射用）又はグルカゴン（グルカゴン注射用）の算定は、原則として認められる。

**○ 取扱いを作成した根拠等**

グルカゴン（遺伝子組換え）（グルカゴンGノボ注射用）又はグルカゴン（グルカゴン注射用）の添付文書の作用機序に消化管運動抑制作用がある。

消化管内視鏡手術時に、当該医薬品を使用することは、臨床上有用と判断する。

また通常、ブチルスコポラミン臭化物製剤（ブスコパン注等）を使用するが、出血性大腸炎の患者や閉塞隅角緑内障の患者など禁忌で使用できない場合、当該医薬品が使用される。

以上のことから、ブチルスコポラミン臭化物製剤（ブスコパン注等）が禁忌で使用できない患者に対する、消化管内視鏡手術時の当該医薬品の算定は、原則として認められると判断した。